



# 芝山小だより

5月号

清瀬市立芝山小学校

校長 佐藤 強

<http://www.kiyose.ed.jp/>

## 3つのカン

校長 佐藤 強

「踏まれても / 踏まれても / なお咲く / タンポポの笑顔かな」

アスファルトで固めた道路の隙間から、タンポポが可憐な黄色い花を風になびかせます。都会に春を感じる瞬間です。

新緑に包まれた清々しい季節を迎えました。早いもので、新年度がスタートしてから1ヶ月程が過ぎました。8学級、210名の子供たちの元気な声や明るい笑顔が校舎内外にあふれています。

新しい学年、友達、そして先生に少しずつ慣れてきた頃でしょうか。きっと、緊張しながらの日々が続いていたことでしょう。連休明けに体調を崩す子が多いようです。健康管理にはくれぐれもご留意ください。

さて、青少協第四地区委員会の皆さんが来校された折に、次のようなお話を伺いました。「1年生の子供が、一人だとぼとぼと畑の中の道を帰っていく姿を見ていたら、何とかしてあげたいと思いました。」そんな素敵な気持ちから、「新1年生下校時付き添い隊」の取り組みが始まったことを知りました。今年で9年目となり、委員や保護者の方々が交代で、方面別に下校時の付き添いをしていただきます。1学期の間、子供たちの登校日には必ず行います。帰る途中では、子供たちがいろいろな話をしてくれるそうです。素敵な触れ合いの時間になっているようです。2学期からは「下校時見守り隊」に切り替わるということも伺いました。本校の子供たちは、地域の方々に温かく見守られながら育っていくことを改めて実感しました。「子供たちのために」という純粋な気持ちは、PTAの皆様や親父の会、地域の方々も同じではないでしょう

か。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

子供とのかかわりということで、日本を代表する教育者・新渡戸稲造博士に関する書物に、次のような話が残されています。

博士が、旧制第一高等学校の校長時代、学校の隣に家を借り、よく学生と対話をしていたそうです。「校長先生と煎餅を食べながら、いろいろなことを語り合った」と、多くの卒業生が後々まで思い出話を語るそうです。「博士が、生徒に身近に接し語り合う姿勢を貫いた結果である」と、著者は述べています。

この話から人間としての貴重な生き方を学ぶことができます。それは、人間としての基本は、上下の関係ではなく、一個の人格として互いに尊敬し接する姿勢であるということです。親と子供、教師と子供……さまざまな立場の違いがあっても、人間としての基本を見失わない人でありたいと思います。

このような生き方をするためにも、人の心をつかむことがとても大切だと思います。

ある識者によれば、人の心をつかむ「3つのカン」があるそうです。相手の変化を感じ、変化の様子をよく観察し、最適な関わりを心がける。この繰り返しは自らの目と心を開き、相手の心をつかむ行動を生むということです。

「教育の原点は子供」を起点に、当たり前前のことを当たり前にしちんとできる教育・かけがえのない宝である子供を大切に育てる教育を、教職員一同心がけていきます。

「教育とは、学校で教わったことを、すべて忘れてしまった後に残るもの」という言葉があります。一人一人の心のなかに、思い出が鮮烈に輝く日々でありたいと願っています。